

いいまちづくり観音寺輝き隊通信

令和二年八月一日発行

文責：大西
編集：白川

【琴弾公園ヒストリー③】

《弓張月・二》源為朝を密告した武藤太（ぶとうた）は西国に向つていたのですが強風により讃岐に流れ着きました。港にあがると琴弾八幡宮が近いことを知つて参拝することになりました。武藤太が祈る言葉は自分の非を棚に上げ為朝密告の恩賞の少なかつたことへの恨みごとでした。為朝の妻である白縫（しらぬい）は琴弾八幡宮で夫の無事を祈つていたのですが、武藤太の言葉からこの男が夫の仇だと判り「これこそ神の導き」と考え「私は観音寺のむこうに住んでいますが今宵は月が眩しいほどの十五夜になりました。お急ぎでなかつたら

語り明かすことに致しましょう」と酒を勧め、酔いつぶれた武藤太を白縫の館に連れ出し懐剣を引き抜くと目にもとまらぬ早業で武藤太の首を打ち落としたのです。※作者の滝沢馬琴は「南総里見八犬伝」で有名ですが、当時は「椿説（ちんせつ）弓張月」が大評判となり、琴弾八幡宮の参拝者が一気に増えたということです。

（参考資料）

- ・四国かんおんじガイドブック
- ・全訳 椿説弓張月 丸屋おけ八訳
- ・日本古典文学大系60 椿説弓張月上 岩波書店



◆公園清掃日について◆

毎月 第1月曜日午前八時～九時
今月の清掃日は 8月3日です。
琴弾公園の池付近に集合
みんなでいい汗を流しましょう。
※お問い合わせ080-3211-1962
観音寺市商工観光課・生活環境課承認済



◆いいまちづくり観音寺輝き隊◆

私たちは「琴弾公園の魅力を高める」ことを主な目的にしている小さなボランティア団体です。歴史的なものを見直し、郷土愛を高め、まちをもっと元気にしようと頑張っています。

パソコンやスマホで『輝き隊通信』バックナンバーと検索すると『いいまちづくり観音寺輝き隊通信』のバックナンバーを見ることが出来ます。



寛談 維永

満ち欠けを繰り返す月の神秘性に畏れを抱くのは世界共通のことです。日本でも江戸時代を中心に各地で『月待（つきまち）信仰』が生まれました。「十三夜・十五夜・十七夜・十九夜・二十三夜・二十六夜」の月待ち講が多く見られ、皆で供え物をして月が出るのを待ち、月を拝んで一緒に食べた飲み飲んだりお話をしたりするのが基本形です。その中の二十六夜、特に旧暦の一月と七月の二十六日のお月様が出る時には、月光が三つに分かれまた瞬時に一つに戻り、その光の中に阿弥陀・観音・勢至の三尊が見えると言われています。これを拝むと幸運を得られる、というので、屋台が出るほど月待ちが盛んだった地区もあるようです。私も一度見てみたいのですが、こしも月が出る前に寝てしまいました。(M)

【琴弾公園クイズ⑬】

68番・69番札所の神恵院・観音寺の山門を入って左側に、少し珍しい名前の天神様が祀られています。

一体どんな名前でしょうか。

- ①あしおと天神
- ②くつおと天神
- ③くつあと天神